

主論文 要旨

学生番号：73417006

氏名：江見 弥生

指導教授：中塚 幹也

Increased arterial stiffness in female to male transsexuals treated with androgen.

江見弥生, 安達美和, 佐々木愛子, 中村好男, 中塚幹也

(The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research に掲載予定)

性差医学の研究からは、女性に比較して男性には血管障害が高頻度であることが知られている。身体の性は女性、心の性は男性である Female to Male Transsexuals (FTM) 症例では、アンドロゲン製剤を長期に使用することになるが、その健康への影響は解明されていない。このため、岡山大学病院ジェンダークリニックを受診した FTM 111 症例（ホルモン未治療 63 症例、ホルモン治療中 48 症例）を同意のもと対象とし、血圧脈波検査装置を用いて血管硬化度を評価した。

未治療群と治療群との間に、年齢、身長、体重、心拍数に有意差を認めなかったが、収縮期血圧、拡張期血圧はいずれも正常範囲ながら、治療群の方が未治療群よりも有意に高値であった。また、血管障害の指標である上腕-踝間の脈波伝播速度を見ると、未治療群では $1,080.2 \pm 113.7$ cm/sec であったが、治療群では $1,202.8 \pm 138.2$ cm/sec と有意に高値であり血管の硬化が進行していることが示唆された。

長期間のアンドロゲン療法は FTM 症例の動脈硬化を進行させる可能性があるため、生活習慣の改善や運動などによる予防が必要である。